

路線バス（妙見口能勢線）の廃止と代替方策について

背景

路線バス（妙見口能勢線）は、東地区を運行する京都バスの撤退に伴い、地域からの要請を受けて、廃止代替（当初、3年間を目途）として阪急バスにより平成15年（2003年）から運行しています。全国の路線バス事業者の約7割が赤字であり、加えてコロナ禍により公共交通を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。

本町においても例外ではなく、運行にあたっては、運行経費の赤字分を能勢町が補助金として全額負担していますが、負担金額の増加及び利用者も減少傾向が続いています。

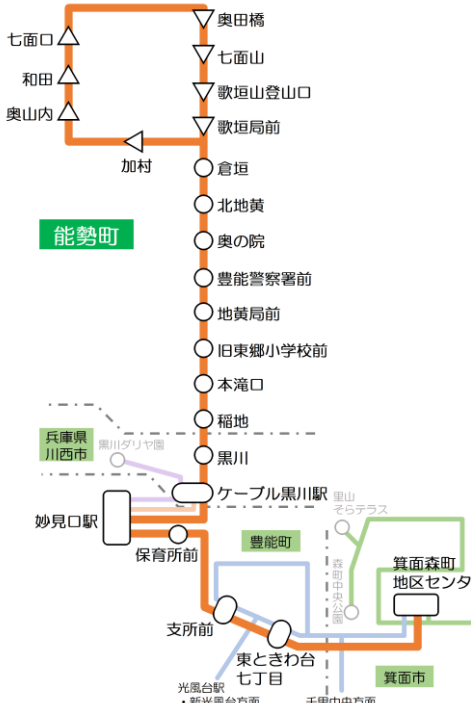
約20年間運行を続けてきましたが、今後も好転する見込みが低いことから、妙見口能勢線を廃止し、需要規模に応じた適切な交通モードへの転換を行います。なお、検討に当たっては、住民、交通事業者、学識経験者等の主体が参画した地域公共交通会議で議論を重ねています。

妙見口能勢線の概況

妙見口能勢線は、町外への鉄道駅アクセスを担う路線として、妙見口駅から町内の東地域（東郷地区及び歌垣地区）を循環し、妙見口駅を結ぶ循環系統で運行しています。

利用者の減少及び補助金の増加等により、令和3年（2021年）4月に減便及び平日のみの運行にダイヤ改正を実施しています。

●妙見口能勢線の路線図



●妙見口能勢線の時刻表（主な停留所のみ表示）

	平日のみ運行							
	第1便	第2便	第3便	第4便	第5便	第6便	第7便	第8便
箕面森町地区センター	6:44	-	-	11:49	-	15:49	-	-
妙見口駅	6:55	7:55	8:55	12:00	13:00	16:00	17:00	18:00
稲地	7:03	8:03	9:03	12:08	13:08	16:08	17:08	18:08
旧東郷小学校前	7:06	8:06	9:06	12:11	13:11	16:11	17:11	18:11
豊能警察署前	7:08	8:08	9:08	12:13	13:13	16:13	17:13	18:13
倉垣	7:12	8:12	9:12	12:17	13:17	16:17	17:17	18:17
奥山内	7:14	8:14	9:14	12:19	13:19	16:19	17:19	18:19
奥田橋	7:18	8:18	9:18	12:23	13:23	16:23	17:23	18:23
倉垣	7:22	8:22	9:22	12:27	13:27	16:27	17:27	18:27
豊能警察署前	7:26	8:26	9:26	12:31	13:31	16:31	17:31	18:31
旧東郷小学校前	7:28	8:28	9:28	12:33	13:33	16:33	17:33	18:33
稲地	7:30	8:30	9:30	12:35	13:35	16:35	17:35	18:35
妙見口駅	7:43	8:43	9:43	12:48	13:48	16:48	17:48	18:48
箕面森町地区センター	-	-	9:53	-	13:58	-	-	18:58

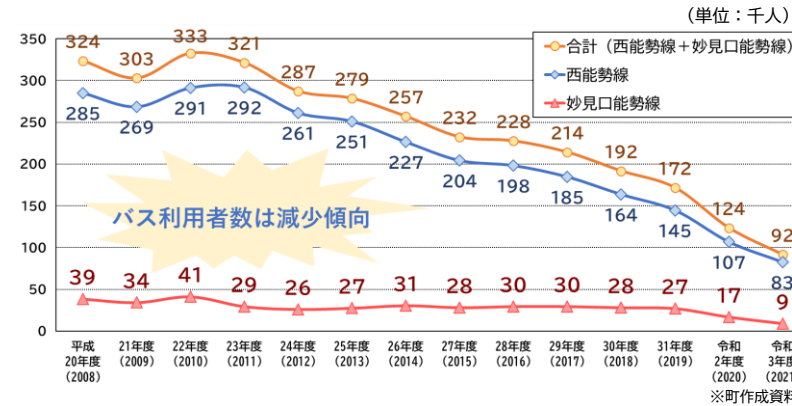
●妙見口能勢線の運賃（主な停留所のみ表示）

	奥田橋	倉垣	豊能警察署前	旧東郷小学校前	稲地	妙見口駅	箕面森町地区センター
奥田橋	210						
倉垣	310	210					
豊能警察署前	360	250	170				
旧東郷小学校前	390	270	220	170			
稲地	620	510	460	410	340		
妙見口駅	750	620	570	510	450	220	
箕面森町地区センター							220

※妙見口能勢線（黒川ダリヤ園系統）は、黒川ダリヤ園開園期間の休日（日祝日）のみ運行
 ※妙見口能勢線（ケーブル黒川駅系統）は、指定期間中の休日（日祝日）のみ運行
 ※阪急バス株式会社路線図・時刻表・運賃表をもとに作成

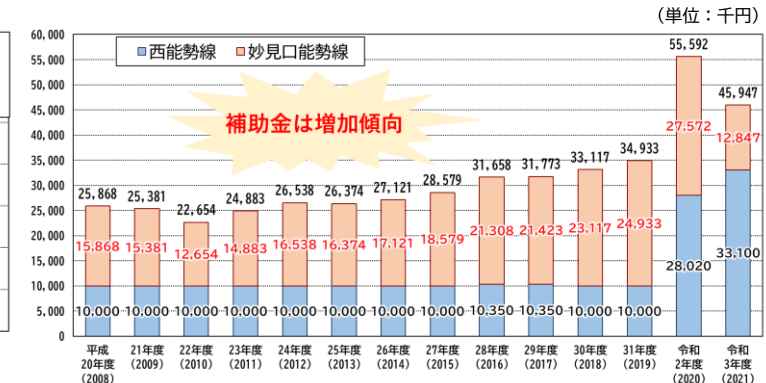
路線バスの現状

●路線バス年間利用者数の推移



地域公共交通計画に基づく公共交通への財政負担金額
目標値 4,000万円/年

●地方バス路線維持費補助金額の推移



※令和2（2020）年度は、西能勢線、妙見口能勢線のうち、1,500千円（合計3,000千円）は、「路線バス感染防止対策・運行継続支援補助金」である

○妙見口能勢線の年間利用者数と補助金額

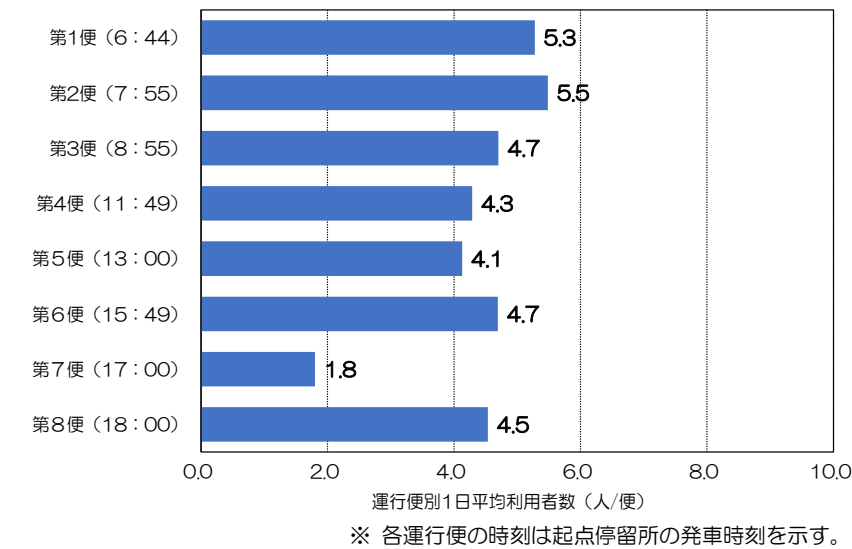
	平成16年度	平成20年度	平成28年度	令和2年度
利用者数	41千人	39千人	30千人	17千人
補助金額	14,832千円	15,868千円	21,308千円	27,572千円

約2倍

○妙見口能勢線の運行便別の利用状況

妙見口能勢線における利用実績をもとに、令和4年（2022年）2月から6月（101日間）における運行便別1日平均利用者数を以下に示します（※阪急バスより交通系ICカード利用状況データの提供を受けて分析したものです）。多くの運行便において、利用者は概ね5人/便前後となっています。特に、町民の方のご利用が少ない状況です。

●阪急バス妙見口能勢線における運行便別1日平均利用者数



妙見口能勢線バス車両の定員
合計：59人
 （座席：23人、立席：36人）
 ※乗務員を除いた定員を示す

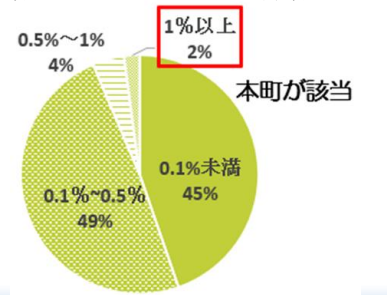
本町の公共交通への財政負担金額について

本町における公共交通への財政負担金額が増加傾向にあり、一般会計予算額に占める地域公共交通予算額の割合が他自治体より高くなっており、これ以上の財政負担が厳しくなっています。

【参考】公共交通に関する令和4年度予算額 約5,600万円

（内訳）路線バス補助金（西能勢線）約3,310万円・（妙見口能勢線）約1,250万円
 乗合タクシー委託料 約1,040万円
令和4年度一般会計予算額 48億5,800万円

●一般会計予算額に占める地域公共交通予算額の割合



（出典）大阪府地域公共交通研修会資料

妙見口能勢線の廃止と代替方策について

○基本的な考え方

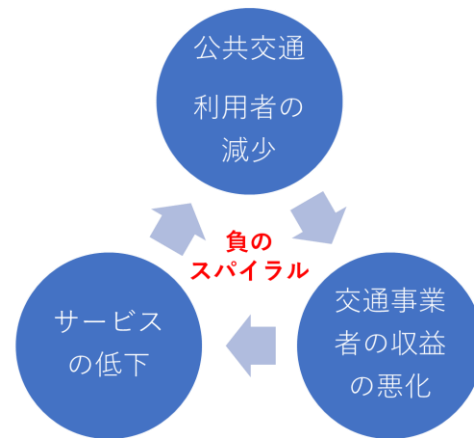
- 居住地点が点在している本町の地域特性に対応するため、各地域から拠点への移動、拠点から町外への移動手段などの確保に向けて、基幹交通（路線バス）、地域交通（乗合タクシー）等を連携させた、持続可能な公共交通ネットワークを構築します。
- 公共交通事業の収支の改善などを図るために、各交通モードの役割分担を踏まえ、適切な見直し、改善を行います。

●能勢町の目指すべき将来の公共交通ネットワークイメージ



○視点

- 妙見口能勢線の利用実績を鑑みると、路線バスでの運行を維持するのは難しく、今後、更なる減便などにより、利用者が今以上に減少するという悪循環に陥る可能性があります。
- 限られた町の財源を有効に活用するために、サービスの転換を図る必要があります。



○変更点 (案)

▼運行形態の変更

- 代替交通として乗合タクシーを東地域に拡大
- 通勤、通学に対応した朝及び夕方については、路線バスのような定時定路線での運行を検討
- 昼間時間帯は乗合タクシーを運行し、町内・町外アクセスを確保

▼運行車両の変更

- 中型バス ⇒ 需要規模に応じた車両（ワンボックスなど）

▼運行事業者の変更

- 阪急バス ⇒ タクシー事業者など
- ※なお、地域公共交通会議では阪急バスが朝のみを運行する意見もあります

○代替案のポイント

① 交通空白地の減少

- 乗合タクシーを東地域全域に拡大することで、現在路線バスが運行していない地域の方の移動手段を確保します。

② 町内間移動の利便性向上（乗合タクシーを東地域に拡大）

- 乗合タクシーを東地域に拡大することで、町内の東西間移動の利便性が向上します。
- なお、令和2年度実施した住民アンケート調査によると、平日の主な外出先として、約7割の方が町内へ移動しています。

③ 運行経費の削減

- 運行形態を変更することにより、妙見口能勢線の運行経費（令和4年度見込額）に対して、運行経費が約5割削減される見込みです（タクシー事業者のみが運行した場合）。

○通勤・通学を考慮した町外への移動手段の確保について

- 朝及び夕方については、通勤・通学に対応するため、現在の妙見口能勢線と同様のルートでの運行を検討しています。
- 東地域での昼間時間帯における町外アクセスは、乗合タクシーが路線バス（西能勢線）に接続することで確保します。ただし、西能勢線を経由するために、移動時間などが増える可能性があります。
- ※通勤・通学を考慮した朝夕の定時型の運行については、今後、目標値などを定め、代替案に移行後の利用状況をみながら、運行継続の判断を行う予定です。

○代替案の概要



※ 妙見口能勢線の見直し案は、現時点のものであり、今後の検討、関係機関との協議・調整及び住民説明会の開催結果等を経て決定いたします。